

1. 総評

(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】**個の尊重と温かな人間関係の育成**

- 気持ちのよい挨拶や返事とともに、友達同士で話す際の言葉の乱れについても指導していく。
- 他教科等とも関連させながら、学年の発達段階に応じた、議論する道徳学習の充実を図る必要がある。
- 道徳の学習活動における児童の思考を見取る工夫や評価について研修を深めていく必要がある。
- 体験活動実施後のまとめや振り返りの活動を充実させていく。
- 児童相互で認め合う活動、励まし合う活動を充実させていく。
- 異学年児童が、放課後子ども教室や校外でも互いを思いやり仲よく生活する環境を整えるために、縦割り班活動や学習発表等の異学年交流をさらに充実させていく。

体力の向上と健康・安全の推進

- 生活習慣等のアンケート調査を実施したところ、90%近くの児童が「できている」「身に付いている」と回答している。実際の児童の様子は数値どおりではない。基準をしっかりと示すとともに、児童一人一人への声かけや日々の振り返りを継続的に行い、自己をしっかりと見つめることができるようにする。
- 保護者会や個人面談、生活指導だより等で児童の様子や実態を伝え、基本的な生活習慣や家庭学習習慣の定着に向けて家庭への協力を呼びかけていく。
- 給食の残菜率は約2.2%である。全校で給食指導を共通実践するとともに、食育指導の充実を図る。
- 運動タイムの成果が見られる。今後も児童の実態を基にした体力づくり活動に継続的に取り組む。
- 自己の体力の変容を把握し、めあてをもつ活動を大切にする。また、記録の蓄積をしっかりと行う。
- あらゆる場面を想定した訓練を今後も実施し、自分の命は自分で守る指導を今後も継続する。
- 登下校の安全についての指導を充実させる。また、P T Aと連携した登校指導、放課後指導に取り組んでいく。
- 家庭と連携してSNSルールの徹底を図り、通信機器の正しい使い方を身に付けさせる。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組の概要**重点的な取組事項－1 学力向上**

- 朝学習(パワーアップタイム) ○朝読書・読書旬間・図書紹介 ○放課後補充教室
- 習熟度別指導 ○そだち指導 ○サマースクール ○あだち小学生夏季基礎学習教室
- チャレンジタイム(基礎・基本の定着を図る時間) ○家庭学習の課題の工夫
- 家庭学習がんばろう週間の実施 ○音読活動 ○九九道場 ○多層指導モデルM I Mの活用
- 新聞活用 ○標語・俳句づくり ○漢字検定・数学検定
- 足立スタンダード研修・算数科校内研究 ○小中連携 ○幼保小連携

重点的な取組事項－2 個の尊重と温かな人間関係の育成

- 挨拶、正しい言葉遣いと返事の励行
- 道徳の時間の改善
- 自尊感情、規範意識、思いやりの心の育成

重点的な取組事項－3 体力の向上と健康・安全の推進

- 生活習慣の確立
- 体力向上のための継続的な取組の推進
- 安全教育・防災教育の推進

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性**重点的な取組事項－1 学力向上**

- 基礎学力の定着・向上に向けての取組をアクションプランに基づき行ってきた。学校全体で継続して取り組むことにより成果が上がる。今年度もプラン内容をしっかりと共通理解して継続し、児童一人一人の定着度に応じたきめ細かい指導を充実させていく。また、校内研修を充実させ、つまずきの原因や指導の在り方などを全教員で協議し、日々の授業に活かすとともに、系統的な指導を実践するための授業研究を行っていく。
- 定着が不十分な児童の指導については、反復学習や個別指導の工夫・充実を図っていく必要がある。家庭とも連携し、身に付くまで粘り強く指導を行っていく。毎月第2週に「家庭学習がんばろう週間」を設定しているが、習慣化するまでに至っていない。毎日取り組む課題を明確に示すこと、個の能力に応じた内容の工夫を行うことなどを徹底し、全児童が毎日目標時間を達成できるようにしていく。
- 朝学習としてパワーアップタイム(音読・マス計算)・朝読書を実施した。計算を速く正確に行う意識が高まっている。今後も時間を有効に利用し、児童の基礎学力の定着を図っていく。音読指導については、全校で取組内容・方法を統一したが、指導方法にばらつきがあった。改善して実施していく。

- 全校共通の学習規律の確立、学習に集中して取り組むことができる教室環境の整備に取り組んでいく。また、話型指導についても全教員が共通理解の下、指導を行っていく。
- 算数科を窓口にした校内研究を充実させ、児童主体の問題解決的な学習活動を全教員が共通理解の下、実践していく。低学年においても算数習熟度別指導を行う体制を整え、基礎的・基本的内容の確実な定着を図る。
- 学年会を定期的に行い、教材研究や学習指導の計画・準備、児童についての情報共有が密に行われる環境を作る。
- 年間を通して主体的に読書に親しむことができるように年間読書目標を設定したが、教員の意識にばらつきがあった。全教員が目的を共通理解し、児童に働きかけていく。また、ボランティアと連携して読み聞かせを行い、児童の聞く力や話の内容を理解する力を高める。
- 漢字検定、数学検定を実施し、児童が目標をもって学習に取り組むことができるようにする。
- 全教育活動を通して、児童の豊かな言語力、表現力、コミュニケーション力を育成していく。

重点的な取組事項－２ 個の尊重と温かな人間関係の育成

- 今後も校内研修を実施し、道徳科の授業や評価の改善、充実を図っていく。また、学習したことを実生活で実践する態度を高めていくことができるようにしていく。
- 児童の言葉の乱れや粗野な行動を正していく。そのためには、授業規律をしっかりと整えるとともに、児童相互、教員と児童の心の交流を図る活動を大切にしていく。
- SNSやオンラインゲーム利用によるトラブルが増えている。セーフティ教室や情報モラル教育を充実させるとともに、SNSルールを軸にして保護者の意識向上を図っていく。

重点的な取組事項－３ 体力の向上と健康・安全の推進

- 生活習慣の定着を図るうえで、家庭の理解・協力が不可欠である。PTAと連携して家庭への啓発を行うとともに、児童自らの力で生活をよりよくしていく意識を高める指導を行っていく。
- 体力状況調査結果を活用し、体育科の授業改善や体力づくり活動の充実を図る。児童一人一人の体力状況をしっかりと把握し個に応じたためあての設定や支援の工夫を行っていく。
- 減災教育の視点から避難訓練等の見直しを行う。また、交通事故防止の視点での安全指導、登下校指導を充実させる。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

保護者の皆様には、本校の基礎学力の定着や家庭学習習慣の定着への取組にご理解・ご協力をいただき感謝いたします。子供たちが主体的に学習に取り組む習慣が身に付くよう、教員の授業力を高めるとともに、一人一人への声かけをしっかりと丁寧に行っていきます。また、つまずきの多い内容や定着状況に応じた課題を宿題とし、自己の課題を克服する力を高めることに今後も継続して取り組んでいきます。引き続きご協力をお願いいたします。

基本的生活習慣を定着させることが、子供たちの学力や体力の向上、気持ちの安定につながります。調査結果を分析すると、就寝時間をしっかりと確保するとともに、自らの力で規則正しい生活を行う力を身に付けることができるよう、ご家庭での声かけやご家族そろっての実践に引き続きご協力をお願いいたします。挨拶・返事・後始末については、学校でも全教職員が一丸となって指導していきます。また、交流学习や梅二っ子活動、放課後子ども教室との連携を通して異学年交流を活発にし、子供たち同士で遊びを工夫したり、他者を思いやる気持ちを高めたりできるようにしていきます。

給食の喫食状況を見ると、和食系の献立の残菜が多い傾向にあります。今後も喫食時間を十分に確保するよう努め、食事への関心や苦手なものにも挑戦する気持ちを育てていきます。また、年間を通して体力を高めたり、運動する楽しさを味わったりする活動を多く取り入れていきます。下校後の遊び方、ゲームやタブレット、SNSの利用については課題が見られます。保護者の皆様にはお子様の様子を把握していただき、適切な利用についてのルールを確認していただけますようご協力をお願いいたします。

地域の皆様には、ラジオ体操やお祭り等の行事、本物に触れる体験活動を実施していただき感謝申し上げます。また、金管バンドの子供たちにとりましては、夏祭りや餅つき大会、学校での演奏会など、地域の方々に日頃の練習の成果を発表する機会が増えたことは、意欲や技能の向上につながりました。今後も多くの機会を利用して、自分たちが住んでいる町を愛する子供たちを育ててまいります。今後とも子供たちの健全育成にご協力をお願い申し上げます。

2. 平成30年度の重点的な取組事項

<達成度 ◎:十分に達成 ○:おおむね達成 △:達成せず ●:課題が残る>

重点的な取組事項－1 学力向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
平成30年度足立区学力調査の目標とする通過率 4月実施：国語80%以上 算数85%以上 2月実施：国語80%以上 算数80%以上 (現学年の内容)	平成30年度区学力調査通過率 国語80%以上 算数85%以上	国語66.3% 算数74.6% 2科70.4%	国語、算数共に目標を達成することができなかった。 国語では漢字やことばのきまり、算数では計算や作図等の基礎的内容やつまずきが多い内容をできるまで反復指導することが徹底されていなかった。	●

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
別紙「平成30年度学力向上アクションプラン」評価シート参照					

重点的な取組事項－2 個の尊重と温かな人間関係の育成

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
道徳教育の充実	児童アンケート調査(6, 11, 2月計3回の全校平均) ・「挨拶」「正しい言葉遣い」4段階B以上90%以上。 ・「良好な友達関係」4段階B以上95%以上。	11月アンケートの結果 挨拶94% 言葉遣い88% 返事91% 良好な友達関係95%	・友達同士で話す際の言葉の乱れ、互いの指導していく。	△

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
挨拶、正しい言葉遣いと返事の励行	・児童アンケート調査(年3回)「挨拶」「正しい言葉遣い」4段階評価B以上90%以上	・生活指導目標、言葉の月目標について具体的な指導の実施。 ・6年生による挨拶運動の計画的実施。 ・正しい言葉遣いの指導徹底。	・挨拶94% 言葉遣い88% ・6年生による児童朝会での挨拶を実施。	・高学年を中心とした日常的な挨拶運動を行っていく。 ・友達同士で話す際の言葉の乱れについても指導していく。	△
道徳の時間の改善	・道徳授業の改善 ・道徳授業地区公開講座での全担任による授業公開。 (1月土曜授業日) ・道徳教育推進教師を中心と	・教科書、その他の資料の活用、外部講師の活用による道徳の時間の充実。 ・授業展開、発問、資料提示、話し合い、書く活動、板書等の工夫、評価についての研修による授業改善。	・道徳授業地区公開講座を計画どおり実施し、全担任が「思いやり」「生命尊重」の題材の授業を公開。 ・道徳授業研修会を年3回実施した。児童の主體的な議論を促す	・授業の展開の仕方や評価内容・方法については、さらに研修を深めていく必要がある。 ・児童が学習したことを実践	△

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
	した道徳授業研修会の実施(年3回以上)	・「思いやり」「生命尊重」の題材の授業における重点的な取り入れ。	授業展開の工夫、評価の仕方等について全教員の共通理解を図ることができた。	する意欲や態度を高めるために継続的な見取りが必要である。	
自尊感情、規範意識、思いやりの心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート調査(年3回) 「良好な友達関係」4段階評価B以上95%以上 ・児童の学級生活の満足度と学校生活への意欲、学級集団の成熟度についてアンケートを実施。 ・豊かな体験的な活動や本物に触れる活動の実施。 ・縦割り班活動「梅二っ子タイム」(月1回) ・特別支援学級との交流活動の充実。(通年) ・梅田保育園との交流活動の推進。(通年) ・学校、地域、区の多様な活動への積極的な参加。 ・SNSによる児童間のトラブルなし。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科・日常生活場面において、全教員が同じスタンスで道徳教育を実践。 ・よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケートを活用するとともに、ソーシャルスキルトレーニング等を取り入れる。 ・音楽、伝統文化等における本物に触れる体験的な活動の実施。 ・「金管バンド」「ミニバスケットボール」の継続練習、演奏会・大会出場。 ・梅田保育園での保育体験(5年生)生活科「ワクワクランド」での交流(1年生)。 ・放課後子ども教室「梅二スマイル」、開かれた学校づくり協議会、保護者、地域と連携した「凧づくり」「門松づくり」等の活動への積極的な参加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート良好な友達関係95%。 ・Hyper-QU調査を3年生以上で実施。 ・開かれた学校づくり協議会と連携し、凧作り、ミニ門松づくりを実施。 ・縦割り班活動月1回実施。 ・特別支援学級児童が各学年の行事や取組、給食等に加わり交流を深めた。特別支援学級担任による理解教育の授業を1, 3, 5年で実施。 ・1年生、5年生が計画どおり交流活動を実施。 ・足立区小学校ミニバスケットボール、サッカー大会に参加。金管バンドは研究演奏会に参加するとともに、地域の夏まつり、餅つき大会でオープニング演奏、ミニコンサート開催を通して地域でも活躍した。 ・5, 6年生でSNSやオンラインゲームによるトラブルが数件あった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年になるに従い、規範意識が低くなる傾向が見られる。道徳教育の更なる充実を図るとともに、児童一人一人が活躍する場や、達成感・満足感を得られる取組を設定していく必要がある。 ・家庭や地域と連携してSNSの利用の仕方など発達段階に応じた情報リテラシーを身に付けさせていく必要がある。セーフティ教室や、ICT教育の内容を再構築していく。 	△

重点的な取組事項－3 体力の向上と健康・安全の推進

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
心身ともに健康な児童の育成 運動に取り組む意欲や態度の育成 児童の安全意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 生活調査 (8, 1月年2回 全校平均) 早寝 80% 早起き 90% 朝ご飯 98% 夜の歯磨き 96% 朝の歯磨き 90% 給食完食 95% 健康に過ごす 95% 体力状況調査 D・E評価 25%以下 	<ul style="list-style-type: none"> 生活調査 <ul style="list-style-type: none"> 早寝 66% 早起き 66% 朝ご飯 92% 夜の歯磨き 95% 朝の歯磨き 81% 給食完食 91% 健康に過ごす 95% 体力状況調査 D・E評価 35% 	<ul style="list-style-type: none"> 早寝、早起きの習慣が定着していない。そのため、朝食は摂るものの歯磨きや排便を行う十分な時間が確保できていない状況が見られる。 体力状況については、E評価の児童の割合がA評価を上回る状況である。毎日の運動時間を確保するとともに、運動の楽しさを様々な機会を通して味わわせていく必要がある。放課後子ども教室を有効に活用させていきたい。 	△

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 生活調査 (8, 1月年2回) <ul style="list-style-type: none"> 早寝 80% 早起き 90% 朝ご飯 98%以上 3名チャレンジカードで名人合格 90% かむカムデー (月1回) 郷土料理 (月1回) 感謝給食会 (1回) ランチルーム給食 (各学年4回) リクエスト給食 (2回) バイキング給食 (1回) 小松菜給食と授業実践 (1回) 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭との連携や自己評価の実施による早寝・早起き・朝ご飯の習慣の定着。特に「早寝」についての指導の推進。 保健便り、保健指導の活用。 挨拶、靴揃え、廊下歩行の指導を行い、児童に実践を促す。 食育リーダー・栄養職員を中心とした「食育」の推進。「食」への自己管理能力の向上。食育授業 (全学年、年2回以上)。給食便り (月1回) の活用。 もりもり賞旬間 (年3回) による完食指導。意識の向上推進。 区「おいしい給食指導事例集」を活用した「食育」の推進。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活調査 <ul style="list-style-type: none"> 早寝 63% 早起き 66% 朝ご飯 92% 3名チャレンジカード <ul style="list-style-type: none"> 挨拶 88% 靴揃え 91% 廊下歩行 86% 給食関係については計画どおりに実施し基準達成。 	<ul style="list-style-type: none"> 早寝、早起きの定着率が低い。1～3年生は21時までには就寝できる割合が低い。また、7時までには起きている1年生が少ない。生活スタイルが変化している影響もあるが、児童自身が時間の使い方や、生活習慣の定着を意識して過ごせるよう家庭と連携していく必要がある。 	△
体力向上のための継続的な取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> 体力づくりの継続取組 運動タイム (通年) 持久走旬間 (2週間) 縄跳び月間 (3か月間) 体育朝会 運動会への取組 (5月) 持久走記録会 (12月) 	<ul style="list-style-type: none"> 体力向上推進プランに基づいて、各学年の体育授業における「めあて学習」の充実。 運動カードを活用し、自己の体力向上へのめあてをもたせる。 体力づくりの指導内容の充実。 長縄チャレンジ、短縄チャレンジの全学年実施。 固定遊具を使った遊び、外遊びの奨励。 体育的行事を通した運動の喜びの感得。 	<ul style="list-style-type: none"> 縄跳びや持久走などの体力づくりを継続的に実施。 木曜日の中休みには運動タイムを計画的に実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 体力の向上は継続的に体を動かすことが大切である。児童一人一人の能力に応じた運動技能の向上を図るとともに、運動の楽しさを味わうことができる授業実践が不可欠である。発達段階に応じた系統的な指導に取り組んでいく。 	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
安全教育・防災教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・災害想定範囲を拡張した避難訓練の実施。避難訓練時における地震・火災に関する安全指導の強化。 (全学年1回) ・地域安全点検(全学年5月) ・地域安全マップ作成(全学年、詳細3年) ・危機管理マニュアルの徹底 ・「食物アレルギー緊急時対応マニュアル」の徹底。 ・登校指導(年2回) ・自転車安全教室(年1回) ・交通安全教室(低:年3回 中:年2回 高:年1回) ・セーフティ教室(年1回発達段階に応じた内容) 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、地域、防犯ボランティア、消防署、警察署、その他関係諸機関との連携の強化。安全・防災指導の推進。 ・他校・区・都の資料等を基にした、危機管理マニュアルの見直し。危機管理の徹底。 ・食物アレルギー対応検討委員会の確実な実施による食物アレルギーのある児童への適切な対応の徹底。 ・学級指導における、危険予測。回避能力の育成のための指導の計画的実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練を計画どおりに実施した。 ・地域安全点検、安全マップの作成を行った。 ・危機管理マニュアルに基づいた安全指導を実施した。 ・食物アレルギー対応訓練や研修を計画どおり実施した。 ・自転車安全教室、交通安全教室、セーフティ教室を計画どおり実施した。 ・自動車との接触事故が数件あった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる場面を想定した訓練を今後も実施し、自分の命は自分で守る指導を今後も継続する。 ・登下校の安全についての指導を充実させる。また、登校指導や放課後指導についても定期的実施する。 ・家庭と連携してSNSルールの徹底を図り、情報機器の正しい使い方を身に付けさせる。 	△

3. 学校活動全般について

知・徳・体の調和のとれた児童の育成を目指して教育活動を行っている。教員の働きかけによって、児童の活動の様子は大きく変容する。児童一人一人の実態を的確に把握し、分かる授業・楽しい授業の実践、個に応じた指導の充実を全教職員が一丸となって推進していく。

各種の教育活動・取組は相互に関連させていくことで効果を高めていく。また、児童一人一人の頑張りや努力を、機を逸せず認め励ましていくことは、自己有用感や自尊感情を高めるとともに、挑戦意欲や改善意識を高揚させていくことにつながる。確かな学力の定着を柱として教育活動の体系化や質の向上を図り、学校の課題解決に取り組んでいく。

教職員が創造的、組織的に教育活動に取り組み、児童に範を示していくことを通して、児童も教職員も「本気で学び、遊び、働く学校」を構築していく。

「平成30年度 学力向上アクションプラン」評価シート

足立区立梅島第二小学校 学校長 大塚 信明

		アクションプラン	達成目標(=数値) 〈いつまで・何を・どの程度〉	具体的な取り組み内容 〈誰が、何を、どのように〉	実施結果	コメント・課題	達成度 (◎○△●)
1	改善	朝学習 (パーアップタイム)	<ul style="list-style-type: none"> 80%以上の児童が滑舌よく滑らかに音読できる。 たし算・ひき算・かけ算のマス計算については、それぞれの目標時間内に達成できる児童を年度末までに80%以上にする。 	<p>【指導者体制】担任</p> <p>【取組のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 詩や古典等をはっきりとした音声で、リズムよく読む力を身に付ける。 たし算・ひき算・かけ算を集中して速く正確に解く力を身に付ける。 <p>【使用教材】マス計算プリント 音読シート 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> しっかりとした発音で音読できる児童は70%程度である。 マス計算を目標時間内に達成できる児童は80%程度である。 	<ul style="list-style-type: none"> マス計算については、昨年度から継続している成果が表れてきている。今後も継続していく。 音読については、発声の仕方などの指導方法について全教員が共通理解して取り組む必要がある。 	△
2	改善	朝読書 読書旬間 おすすめの 図書紹介 (ビブリオバトル)	<ul style="list-style-type: none"> 年度末までに80%以上の児童が年間読書目標を達成する。 読書旬間に、全学年が紹介文の掲示を行う。 	<p>【指導者体制】担任</p> <p>【取組のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの読み物を読むことを通して、活字に慣れ、語彙を増やす。 豊かな心情を養う。 始業前に気持ちを落ち着け、学習の構えをつくる。 本を紹介することで、表現力を養う。 <p>【使用教材】学級文庫、学校図書館の図書、各自が用意した図書</p>	<ul style="list-style-type: none"> 12月末現在の目標達成児童は40%程度である。 読書旬間に発達段階に応じた図書紹介を行った。ビブリオバトルは実施できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度より学校図書館の利用率は大きく向上している。年間読書目標達成率が低いことは、読書活動への取り組み方や声かけに学級によって温度差があることが原因である。全教員が読書の大切さを実感し、機会の設定や児童の進捗状況の確認・声かけを絶えず行っていきたい。 	●
3	継続	放課後補充教室	<ul style="list-style-type: none"> 9月の再調査で全体の通過率を90%以上にする。 2月の調査で通過率を75%以上にする。 	<p>【指導者体制】担任 専科教員</p> <p>【取組のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 前学年までの学習内容のつまずきについて個別指導を行う。(各学級5名程度) 現学年の学習内容でつまずきや、習熟が不足している内容についての補充を行う。 <p>【使用教材】ベーシックドリル、次へのステップ 区・都・国調査問題、区調査復習問題 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> 9月再調査での通過率は84%である。 2月調査での通過率は69.5%である。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏季休業前までは、あと数問正答で通過できる児童を対象に実施してきた。つまずきについての指導方法を教員相互で検討するなどして効果を高める必要がある。 	△

4	継続	習熟度別指導	<ul style="list-style-type: none"> ・80%の児童が単元テストで80点以上をとる。 ・年度末の診断シートの平均正答率70%以上。 	<p>【指導者体制】 担任・習熟度別指導担当（3～6年）時間講師（1，2年）</p> <p>【取組のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人の算数の既習内容の定着状況を基にした学級編成で、個に応じた指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト80点以上の児童は70%程度である。 ・診断シートの平均正答率は64%である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟の程度に応じた問題や課題の設定、前時までの既習内容を活用した自力解決の支援、児童の考えを練り上げるための教員の関わり方等について今後もさらに研修を深めていく。 	△
5	継続	そだち指導	<ul style="list-style-type: none"> ・対象児童が全員卒業する。 	<p>【指導者体制】 そだち指導員</p> <p>【取組のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値に到達していない児童のつまずきについて、短期間に解消する。 ・さかのぼり学習を行うなどして、基礎的・基本的内容の確実な習得を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象児童は全員卒業予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象児童のつまずきについて、担任と指導員がより密に連携して分析したり指導したりしていく必要がある。卒業後も放課後指導や家庭学習で反復して学習できるようにする工夫が必要である。 	○
6	継続	サマースクール	<ul style="list-style-type: none"> ・9月の定着度調査で70%以上の児童が目標値を通過する。 	<p>【指導者体制】 担任・専科・管理職（児童2名に教員1名）九中ボランティア生徒</p> <p>【取組のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定着が不十分な前学年までの学習内容について、個別指導を行う。 ・3・4年生については、そだち指導及び民間業者による指導との連携を図りながら指導を進める。 <p>【使用教材】 ベーシックドリル、次へのステップ等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サマースクール参加児童の9月再調査の通過率は23%である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主として通過率50%未満の児童を対象に指導を行った。一人一人の課題に応じた指導内容を設定するとともに、つまずきを克服するために適切な教材を作成したり、児童自身が達成感を味わうことができる活動を設定したりして、継続指導していく。 	△
7	改善	あだち小学生夏季学習教室	<ul style="list-style-type: none"> ・3・4年国語 …9月の定着度調査で80%以上の児童が目標値を通過する。 ・2～5年算数 …9月の定着度調査で80%以上の児童が活用力を問う問題を通過する。 	<p>【指導者体制】 民間事業者</p> <p>【取組のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3・4年国語の基礎的・発展的内容の補充を行う。 ・2～5年算数の発展的内容を取り扱い、思考力や活用力を高める。 <p>【使用教材】 民間事業者・区が用意する教材</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季学習教室参加児童の9月再調査通過率は77%である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年基礎コースで実施したため、思考力・活用力を高めるまでには至っていない。上位の児童が活用力を高める機会として利用することも考えていきたい。 	○

8	改善	チャレンジタイム (基礎・基本の定着を図る時間)	<ul style="list-style-type: none"> 年度末の確認テストで80%以上の児童が正答率80%以上の結果を出す。 年度末に短作文調査を行い、80%以上の児童が条件にあった文章を書く。 年度末に計算テストを行い、80%以上の児童が正答率80%以上の結果を出す。 	【指導者体制】 担任 【取組のねらい】 <ul style="list-style-type: none"> 文のつくり（主語・述語・目的語・修飾語等）、文と文の関係（指示語・接続語等）についての基礎を定着させる。 視写を行うことにより、美しい表現や論理的な文章を味わうとともに、表現力・読解力を高める。 既習の計算を速く、正確に解く。 【使用教材】 次へのステップ ベーシックドリル プリント教材 等	<ul style="list-style-type: none"> 年度末の正答率 80%以上の児童 確認テスト 74% 短作文 66% 計算テスト 75% 	<ul style="list-style-type: none"> 15分×週2回の設定であったが、取組内容が学年によって異なっていた。取組内容を絞り込み、系統的・継続的に指導を行っていきたい。また、反復学習や確認を行う時間としても活用していくようにすることで、基礎的・基本的内容の定着を効率よく進めていくことができるようにしたい。 	△
9	継続	家庭学習の課題(宿題) <ul style="list-style-type: none"> 意味調べ 新出漢字 つまずきが多い内容についてのプリント等 	<ul style="list-style-type: none"> 年度末の確認テストで85%以上の児童が、正答率85%以上の結果を出す。 	【取組のねらい】 <ul style="list-style-type: none"> 自ら国語辞典や・漢字辞典を用いて言葉の意味を調べる習慣を身に付ける。(1日2～3語) 対義語や同義語、類義語を知り、語彙を増やす。 国語に限らず、他教科等で出てくる言葉、新聞、図書等、調べる範囲を広げていく。 新出漢字は先取り指導を行い、反復学習ができるようにする。 学年でつまずきの多い単元・内容についての振り返り学習を継続的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度末確認テスト85%以上 意味調べ71% 新出漢字74% 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の課題内容の工夫や効果の測定をより丁寧に行っていく必要がある。反復学習を取り入れるなどして、継続して取り組むことにより定着していることを児童自身が実感できるようにしていく。 	△
10	継続	家庭学習ががんばろう週間	<ul style="list-style-type: none"> 年度末の調査結果で85%以上の児童が、目標時間、宿題提出を達成する。 	【取組のねらい】 <ul style="list-style-type: none"> 家庭と連携して児童に家庭学習習慣を身に付ける。(目標時間 10分×学年 以上) 家庭学習で取り組む内容を児童自ら考え、実践する力を養う。 【取組内容】 家庭学習、読書、テレビ・ゲームの時間をカードに記録する。毎日カードを提出し担任から達成できていない児童への声かけを行う。	<ul style="list-style-type: none"> 3月調査結果 目標時間達成 72% 宿題提出82% 	<ul style="list-style-type: none"> 学年によって達成率に差異がある。担任が一人一人の取組状況を把握し、声かけをしたり家庭と連携したりすることをより丁寧に行っていく必要がある。 	△
11	継続	音読活動	<ul style="list-style-type: none"> 年度末には、80%以上の児童が、教科書の文章をすらすらと音読することができる。 	【指導者体制】 担任・専科教員 等 【取組のねらい】 <ul style="list-style-type: none"> 各教科の教科書の音読を各単元で10回以上行うことで、すらすらと文章を読む力を高め、文章内容の理解をしやすくする。 	<ul style="list-style-type: none"> 83%の児童が滑らかに音読できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 口の開け方、発声の仕方などを含めて継続的な指導を粘り強く行っていく必要がある。 	○

12	継続	九九道場	・年度末には、各学年70%以上の児童が十両以上に合格する。	【指導者体制】 校長・担任 【取組のねらい】 ・九九を「唱える」「書く」検定を実施し、意欲を高め習熟を図る。	・九九検定 年度末合格 78%	・九九を楽しく覚えること、より速く正確に唱えることができるように3年生でも継続していく。	○
13	継続	多層指導モデルMIM	・80%以上の児童が通過する。	【指導者体制】 校長・担任・指導員 【取組のねらい】 ・特殊音節の読みに焦点をあて、読みのつまずきを解消することで、他教科・領域の学習に円滑に取り組むことができるようにする。	・1年生1st 到達児童85%	・放課後指導やチャレンジタイムでも活用し成果を挙げている。2nd、3rdの児童については、次年度も継続して指導していく。	○
14	継続	新聞活用	・年度末には、65%以上の児童が、決められた条件で記事を要約し、自分の考えや意見を論理的に表現することができる。	【指導者体制】 担任 【取組のねらい】 ・社会事象や話題に関心を持ち、必要に応じて内容や語句の意味を更に深く調べたりする力を身に付ける。 ・記事を要約する力、自分の考えを論理的に書いたり発表したりするなどの表現力を身に付ける。	・目標基準達成 児童61%	・4年生以上で活用している。系統的に活用していくことができるよう検討していきたい。	△
15	継続	標語・俳句づくり	・代表作品については表彰を行い、学級の30%以上の児童が表彰対象となる。	【指導者体制】 担任 【取組のねらい】 ・語彙やリズムに親しみ、自分の思いや願いを表現する。 【取組内容】 ・食育標語（全学年） ・人権標語（5年） ・一茶まつり俳句（全学年） ・いじめ防止標語（代表委員会） 等	・表彰対象児童は、学級の32%程度である。	・様々な標語や俳句づくりに取り組んできた。充実した作品内容になってきている。今後も継続し、豊かな表現力を身に付けさせたい。	○
16	改善	漢字検定 数学検定	・受検児童の70%以上が合格する。	【取組のねらい】 ・児童自身が合格目標を設定し、家庭学習等で継続的に学習する習慣を身に付ける。 ・自己の定着状況を全国的な検定調査により確認する。	・漢字検定 80.4% ・数学検定 96.3%	・今年度より数学検定を実施。自己の学力の定着度を確認する機会、目標達成に向けて継続的に学習する習慣を定着させる機会として次年度も実施する。	○

17	改善	足立スタンダード研修 算数科校内研究	<ul style="list-style-type: none"> 区調査でつまずきの多い単元の正答率が前年度比20%以上。 教員アンケート4段階B以上が80%以上。 	【取組のねらい】 <ul style="list-style-type: none"> 足立スタンダードについての共通理解を図り、統一内容を確認する。 算数科における問題解決的な授業実践を公開し、協議を行うことで指導力の向上を図る。 算数科における学習内容の系統性を明らかにし、指導に生かす。 つまずきの多い単元の指導方法について全教員で検討・検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> 2月調査結果 教員アンケートB以上82% 	<ul style="list-style-type: none"> スタンダード研修を基に、全学年で算数科の校内研究を行った。教員は、教材分析や系統的な指導の大切さを実感することができた。次年度も継続し、既習内容を活かして自力解決するための支援や新しい知識を獲得する話し合い活動の充実を目指す。 	△
18	継続	小中連携	<ul style="list-style-type: none"> 教員アンケート4段階B以上が85%以上。 研修内容が日常の指導に生かされている。 中学校進学に向けて高学年児童の85%以上が目標や夢をもつ。 	【取組のねらい】 <ul style="list-style-type: none"> 「9年間を見通した、主体的・対話的で深い学びを実現する指導の工夫」を研究主題とし、学び方部会、国際理解教育部会、体力向上部会に分かれ授業研修を通して授業改善を図る。 児童、生徒の交流を通して、児童が将来の希望をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員アンケートB以上76% 	<ul style="list-style-type: none"> 本校教員3名が国語、算数、理科で研究授業を行った。中学校教員の専門性を活かすために、より内容の濃い指導案検討や授業に関する協議を行っていききたい。 	△
19	継続	幼保小連携	<ul style="list-style-type: none"> 教員アンケート4段階B以上85%以上。 	【取組のねらい】 <ul style="list-style-type: none"> 5歳児プログラム、スタートカリキュラムの内容を相互に理解し、円滑な接続を目指した指導実践を行う。 保育参観、交流研修を通して園児の実態や園の取組を理解し、学習・生活規律の確立に生かす。 児童、園児に関する情報交換を行い、円滑な接続や入学後の指導に生かす。 児童と園児の交流を通して思いやりの気持ちや自己有用感を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員アンケートB以上86% 	<ul style="list-style-type: none"> 全教員が連携活動に関わることができるようしていきたい。 今年度より本校入学予定児童を対象にした入学体験会を11月より5回実施した。全教員が就学児童の様子を観察し様子の把握に努めてきた。園との情報共有に活用し円滑な接続を目指す。 	○
20	改善	校内若手教員研修 学力定着指導員による若手教員研修	<ul style="list-style-type: none"> 対象教員が授業力に関する自己評価4段階B以上。 学力定着指導員、管理職の評価4段階B以上。 教員アンケート4段階B以上が80%以上。 	【取組のねらい】 <ul style="list-style-type: none"> 4年次までに身に付けたい力を明らかにし、全教員が関わりながら計画的に若手教員を育成する。 学力定着指導員の指導・助言を受けながら、国語・算数について指導力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 対象教員自己評価B以上78% 学力定着指導員・管理職B以上75% 教員アンケートB以上72% 	<ul style="list-style-type: none"> 教材研究が浅いために、ねらいに迫ることが不十分な授業がある。学年担任と一緒に教材研究をしたり教材を準備したりするなどの取組を通して、実践力を高めたい。 	△